

## P1-096

### 小児がんの子どもをもつ親のレジリエンスを促進するハンドブックの開発

天野 里奈<sup>1</sup>、河上 智香<sup>1</sup>、門馬 共代<sup>2</sup>、  
今江 沙織<sup>2</sup>、長谷川 奈未子<sup>2</sup>、小川 純子<sup>3</sup>、  
大堀 美樹<sup>4</sup>、荒木 暁子<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 東邦大学看護学部、

<sup>2</sup> 東邦大学医療センター大森病院、

<sup>3</sup> 淑徳大学看護栄養学部、

<sup>4</sup> 東京医療保健大学医療保健学部

#### 【目的】

小児がんの子どもをもつ親のレジリエンスを促進するための自記式ハンドブックを開発する。

#### 【方法】

小児がんの子どもをもつ親に関わる専門職者で構成された研究会を立ち上げ、文献検討を行った。次に、2021年3月～10月にかけて、子どもが治療中の親と治療終了後の子どもをもつ親、計7名に対し、半構造化面接を実施した。逐語録の内容を質的に分析し、得られた結果を元に、自記式ハンドブックの作成を行った。本研究は所属機関の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

#### 【結果】

逐語録の分析から、子どもが診断された時から現在に至るまでの気持ちの移り変わりとその時期に乗り越える力となったと感じる外部からの支援や親自身の内面的な力、問題を解決する力を明らかにした。その結果を参考に項目を生成、内容を検討した。項目の内容は、病名告知から治療開始の時期に子どもと家族の治療や疾患理解を促す「治療のスケジュール」「子ども／きょうだいへの病気の説明」に関する項目、治療中に起こる子どもの変化への適応を促す「治療中の注意点」に関する項目、親に子どもの健康管理が委ねられる状況への準備となる「外泊の記録」「退院後の注意点」「復園・復学のための準備」に関する項目、病気の子どものだけでなく、家族のライフイベントなどにも目を向けるように促す「きょうだい／家族のこと」に関する項目とした。

各項目の構成は「概要説明」「先輩家族の体験談」「記録欄」とした。「概要説明」では啓発・情報提供を目的とした説明文を掲載し、「先輩家族の体験談」は他者の体験を知り、レジリエンス促進のきっかけとなるような内容とした。「記録欄」は記載という作業を通し、親の感情や思考の整理を促すことや周囲にある支援を見つけること、親自身や家族の尽力を振り返ることができる内容とした。

また、ハンドブックはリングファイル式とし、医療者から渡される治療計画や検査結果などの資料類を挟み込み、経験の記録としてのちに見返すことができるようにした。

#### 【まとめ】

記載することを通して、親が危機的状況乗り越えるための一助となるハンドブックを作成した。今後活用可能性を検討していく予定である。

JSJPS 科研費 JP17K12374 の助成を受けて実施した。

## P1-097

### 高校生世代の栄養摂取状況と健康状況に関する研究

堤 ちはる<sup>1</sup>、三橋 扶佐子<sup>2</sup>、北村 洋平<sup>3</sup>、  
小池 梨絵<sup>3</sup>、中村 浩彦<sup>3</sup>、宮地 一裕<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 相模女子大学栄養科学部健康栄養学科、

<sup>2</sup> 日本歯科大学生命歯学部共同利用研究センター、

<sup>3</sup> 森永乳業株式会社研究本部健康栄養科学研究所

#### 【目的】

本研究では、女子高校生を対象に、栄養素摂取状況、体調に関する自覚症状、ヘモグロビン（Hb）推定値の調査を行うことで、高校生世代において注目すべき栄養課題と Hb 推定値の実情を明らかにし、両者の関係も検討することを目的とした。

#### 【方法】

女子高校生 94 人と保護者に調査概要を文書にて説明し、紙面にて同意が得られた 92 人を対象とした。Hb 推定値は、非侵襲で経皮的に推定できる「ASTRIM FIT」（シスメックス社製）にて測定し、体調・生活習慣に関するアンケート調査を実施した。栄養素摂取量は、「簡易型自記式食事歴法質問票」（BDHQ 法）と「食事記録紙への記入とスマートフォンを用いた料理写真撮影」（食事記録法）にて算出した。本研究は相模女子大学「ヒトを対象とする研究に関する倫理審査委員会」の承認を得た（受理番号 20029 号）。

#### 【結果】

Hb 推定値は 92 人の対象者全員で測定した。食事調査として、BDHQ 法は 91 人、食事記録法は 53 人で実施した。アンケート調査から、全対象者の 50% 以上で、貧血に伴い現れる何らかの症状を自覚していた。Hb 推定値が WHO 基準の 12g / dL 以下である者の割合は、BDHQ 法の対象者で 23.1%、食事記録法の対象者で 18.9% であった。栄養素摂取状況は、特に鉄摂取量が少なく、「日本人の食事摂取基準（2020 年版）」の推奨値を下回った者の割合は、BDHQ 法の対象者で 76.9%、食事記録法の対象者で 96.2% であった。Hb 推定値と鉄摂取量との関係では、BDHQ 法の対象者では有意な関係を認めなかったが、食事記録法の対象者では、Hb 推定値が 12g / dL 以上の対象者において有意な正相関を認めた。

#### 【考察】

本調査から、女子高校生の半数以上は貧血に関連する何らかの症状を自覚しており、約 2 割は Hb 推定値が WHO 基準を下回っているなど、鉄欠乏が大きな課題であることが示された。また、鉄の摂取量は 75% 以上の対象者で「日本人の食事摂取基準値（2020 年版）」の推奨量を満たしておらず、積極的な摂取が求められる。食事記録法の対象者で Hb 推定値が WHO 基準以上の場合に Hb 推定値と鉄摂取量が正相関したことから、Hb が正常域にある人での鉄の積極的な摂取は Hb を高める可能性がある。高校生一人ひとりに、自身の栄養素摂取状況や食事内容に関心をもたせるための積極的な啓発が重要であると考えられる。